



函館からトラスト



Nov.2009 No.27

公益信託 函館色彩まちづくり基金 平成20年度助成活動が決定

第16回は5件の助成が決定

平成21年2月14日(土)函館市末広町の五島軒本店で、第15回助成団体の報告会及び、第16回応募団体の説明会が催された。それを受けて、運営委員会が開催され、12件の助成申込みのうち、5件の助成団体が選定された。助成金額は前年度と同じ150万円となった。

※運営委員会で話し合われた各助成団体に対する詳細コメントは
ホームページ (<http://www.h-nisshou.com/kara/>) をご覧ください。

	申請者	助成希望テーマ	希望金額	助成金額
1	ペンキ塗りボランティア (相場 奈津子)	谷地頭商店街の町並み色彩改善 Part4 一町屋ペンキ塗りワークショップ・XVI	5 5 万円	5 5 万円
2	NPO法人はこだて街なかプロジェクト (理事長 山内 一男)	空地に花を咲かせよう	3 3 万円	2 5 万円
3	アートフェス ハコトリ実行委員会 (大下 智一)	アートフェス ハコトリ(アートによる「人のつ ながり・空き家・地域」再生活動)	4 7.8 万円	0 万円
4	函館市公民館活性化ネットワーク 「イキ! ネット」 (松石 隆)	函館市公民館活性化事業 ～公民館マチネ・フォーラムの開催～	3 0 万円	1 5 万円
5	函館日仏協会 (会長 関口 昭平)	「フランスゆかり函館マップ(仮称)」 の作成・発行	4 3 万円	0 万円
6	はこだて外国人居留地研究会 (清水 憲朔)	函館の町並みに生きる箱館開港	5 4.8 万円	3 0 万円
7	まちワーク研究室 (根本 直樹)	函館まちジュニアキャンパス 「子どもたちが考えるまちづくり」の実践	3 0 万円	0 万円
8	SONICWAVE実行委員会 (三上 千年)	函館SONICWAVE～音波～	1 0 0 万円	0 万円
9	(有)ビットアンドインク (代表取締役 星野 裕)	ペリー函館来航当時の函館を描いた貴重な資料 「函館海岸図」の復刻と公開	3 0 万円	0 万円
10	ハコダテ150編集チーム (佐々木 康弘)	「開港150周年目の記録写真集」制作と出版	3 5 万円	0 万円
11	函館大門地区桜を植える会 (今 千尋)	函館大門地区に「はる(春・張る)」を呼ぶ桜で 憩う町並みづくり	4 0 万円	2 5 万円
12	NPO法人NATURAS(ナチュラス) (赤石 哲明)	子どもたちの郷土愛を深める教育プロジェクト 「街なカメラ探検隊」	4 0.5 万円	0 万円
計			12件 538.38万円	5件 150万円

2008年の活動報告①

ペンキ塗りボランティア隊

谷地頭商店街の町並み色彩改善Part3 一町家ペンキ塗りワークショップ・XVー

代表 小林 暁子

活動の目的

数年がかりで谷地頭町商店街全体の建物外観のペンキを塗り替えることをととして、誰の目にもあきらかな都市景観の改善と、ペンキ色彩による商店街再生への手がかりとすること、さらには将来を担う学生たちの実践的なまちづくり教育の一助とすることをめざすものである。

活動の内容

私たちの活動は1994年から毎年続けておこなってきたが、一昨年の2006年から、建物が連続する通りの「町並み」色彩の改善という新たな展開のスタートを切った。具体的には、谷地頭町商店街を対象とし、岡嶋一夫・谷地頭町会会長と市中益雄・同副会長を仲立ちとして、地元谷地頭町会との連携をはかり、地域全体の将来像を描きながら、一昨年は谷地頭町会館と市中屋餅店、昨年は新山家住宅とフクイ電気商会の計4棟を塗り替えた。今回は、この谷地頭町商店街のペンキ塗り替え活動の第3弾としておこなったものである。いつものように、塗り替え対象建物の選定、塗り替える色の検討とシミュレーション・色彩の決定、ペンキ塗り替えの準備―足場の手配、ペンキ塗料の手配、刷毛等の用具の準備、ペンキ塗りボランティアの募集―等の段取りを経て、2008年7月26日(土)27日(日)の2日間をわたり、ペンキ塗り替えを実施した。塗り替えたのは、昨年までの4棟と連続する「やぶした生花店」と、通りの向かい側の2棟―「ママショップクリーニング」と「菊地精肉店」―の計3棟である。ペンキ塗り活動には、引き続き地元の学生や一般市民にも参加していただけるように配慮し、延べ60人という大勢の参加者を迎えることができた。

また、小澤武・前運営委員の提言(から No.25 を参照)を受けて、これまでペンキを塗り替えたすべての建物の所有者や、その周辺の住民の事前、事後の意識の変化をさぐり、生の声を拾い上げるために、アンケート調査を実施し(全配布数170、全有効回収数42、有効回収率24.7%)、今後の活動の課題と指針を得ることが出来た。

活動の成果

今回の活動によって、函館山に向かって左側の通りでは連続する5棟が塗り替えられたことになり、新たに、その向かいの通りで連続する2棟が塗り替えられた(写真参照)。外壁の基調色をアイボリー色に統一し、建物の一部を強調色として建物ごとに異なる色を使用する、という色彩計画の方針は、写真にあるとおり、背景の函館山の緑に映えて、明るく、まとまりのある町並みをつくると同時に、各建物が個性を表現し、リズムをつくる、というように目に見えるかたちで、その成果があらわれつつあると自負している。

アンケート調査については、回収率が思ったほど伸びなかったのは誤算であったが、それでも大まかな全体像はとらえられたのではないかと考えている。結果の概要は以下の通りである。私たちのペンキ塗りボランティア活動に対して、西部地



塗り替え前の町並み



明るく、個性的になった塗り替え後の町並み

区住民の認知度、関心度はともに高い。とくに関心の高い理由として、街の美化・景観の改善、地域の活性化・再生、古い建物・町並みの保全、住民意識の高揚など、活動に対するさまざまな価値への評価がとらえられた。活動の目標に掲げられている西部地区の歴史的景観の改善や町並みの再生への貢献度についても高く評価されている。また活動が、古い下見板張りの町家や歴史的景観・町並みに対する住民の関心を高めることに大きな影響を与えていることもとらえられた。今後の要望として、活動の継続と発展、活動への市民の参加の促進、これまでの活動実績の情報提供などがあげられた。しかし一方では、老朽化が進む町並みの根本的な課題として、少子高齢化の進む人口構成の回復、老朽住宅・空家の整備・更新、空地の更新などの、住宅・住環境の再生があげられ、それに対する何らかの活動が切実に求められていることもあきらかになった。

今後の展望

次年度に、函館山に向かって右側の通りで、今回塗り替えた2棟に連続して2、3棟が塗り替えられるならば、向かいの通りの連続する5棟とあわせ、通り全体の町並みとして、将来の商店街のイメージをより強く、鮮明に地元の人々に思い起こさせることができるだろう。そのことで、地元住民の町並みに対する意識をさらに高めていくことが期待される。

2008年の活動報告②

まちワーク研究室

函館まちジュニアキャンパス「弥生小学校を創る」学科の実践

代表 根本 直樹

実施期間

●平成20年6月～平成21年2月

平成20年 6月14日、7月5日、8月9・10日、10月18・19日、
11月15・16日、12月13・14日

平成21年 1月17日・18日、2月14日

実施方法

本事業は、函館市内、函館市近郊に在住の小学4年生から中学生を対象とし、北海道教育大学函館校『まちワーク研究室』が企画・運営を行っているものである。現在どのような学校、学びが求められているのか、これについて子どもたちの生の声を聴き、理解し、同時に子どもたちに今一度考えさせる契機

を与えることを目的としてきた。前半は建物などのハード面を、後半は学習プログラムなどのソフト面を取り上げ、年間を通して両面について考え、学ぶ場を提供した。

実施状況

●実施概要

学校という場においての役割は、やはり子どもたちであると考え。しかし、昨今の著しい少子化によって、しきりに学校再編がおこなわれ、新たな学校を創る機会が多くなっている。そこに主役である子どもたちの意見はどのくらい反映されているだろうか。また、今叫ばれている教育問題の渦中にいる子どもたちにとって、彼ら自身はいったいどのような学びを求めているのだろうか。このような観点から、「学校」という立場において教員などの教育者側からではなく、学びを行う学習者側、つまり子どもたちの視点に立って理解する必要があると考える。本事業は、子どもたちが自主的活動をおこない、自分たちがよりよく生活するためにはどのような学校が望ましいのかについて考える場を与えるものである。

●実施の成果

- ・子どもたちの個性を尊重し、子どもたちと共に活動をつくることができた。
- ・小・中学生と大学生とが共に学び合い、楽しく活動することができた。
- ・子どもたちの主体性・積極性を高める活動ができた。
- ・子どもたちの生の声を、函館市教育委員会へ提出することができた。

●今後の課題

課題としては、毎月1回ないし2回の活動ということもあり、「参加者の募集方法や継続性」が挙げられた。一部の学校の子どもたちしか集まらず、参加者が限られ、意見の幅が狭くなってしまったとも考えられる。来年度は活動内容の充実や、広報活動の工夫をし、より多くの参加者と共に活動をつくってきたい。

また、「子どもに対する導きの手法」が挙げられた。子どもたちの考えをより引き出すためには、大学生側からどの程度の、そしてどのような導きが必要であるのかを突き詰めるべきであったという課題が出た。これについては、主催者側である大学生が週2回の会議の中でもっと話し合うべきであったと考える。来年度は、これらの課題を踏まえ、よりよい活動を展開していきたい。

今年度の活動の流れ

第1回	6月	「行きたくなる」学校の提案、まとめ作業、発表会
第2回	7月	あさひ小学校内の見学、まとめ作業、発表会
第3回	8月	理想の学校の考案、まとめ作業、発表会
第4回	10月	前回の活動を踏まえた意見の提出・集約、まとめ作業、発表会
第5回	11月	学校行事の考案、まとめ作業、発表会
第6回	12月	新学校区のフィールドワーク、まとめ作業、発表会
第7回	1月	外からの者へ新学校区の紹介、まとめ作業、発表会
第8回	2月	年間の活動を通しての「理想の学校」のまとめ、発表会

活動全体を通して・今後の展望

今年度は、昨年度までの「じろじろ大学」という名称を変えし「函館まちジュニアキャンパス」という新たな名称で活動をおこなった。その中で、特に心がけたことは「学びの共有」である。これは、子どもたちと大学生が共に活動に取り組んでいくということである。大学生が子どもたちの意見を引き出す側に徹し、子どもたちの意見を踏まえて一緒に活動に取り組み、よりよいものができた。また、大学生も、子どもたちの発見に気づかされることが多々あり、互いに学び合うことができたと考える。

子どもたちは活動回数を重ねるごとに、主体性・積極性が見られるようになり、この活動を通して成長していると実感できた。まとめの方法に工夫がなされていたり、小さな声で自信なげに発表していた子どもが大きな声で堂々と発表できるようになっていたりした。

これは大学生にも当てはまる。大学生も活動を進める際に皆の前に立って話す機会がある。初めは前を向いて話せなかった学生も、今では聞き手の方をしっかりと見て話すことができるようになった。

以上のような成果があったと同時に、先にも述べたように、年間を通じての活動ということもあり、参加者の継続的な参加が難しく、参加者が限られてくるという傾向が見られた。また、子どもに対する導きの手法も課題として挙げられた。

来年度は、今年度の成果や課題を踏まえ、よりよい活動にしたいと考える。私たちは特に、子どもたちと大学生の「学びの共有」は継続していくが、これに加えて、子どもたち同士、大学生同士、子どもたちと保護者、については地域の人たちとも「学びの共有」ができるような活動を目指し、地域における人々の交流の場、ひいてはまちづくりの一端となる地域コミュニティの形成に寄与したい。



2008年の活動報告③

はこだて外国人居留地研究会 「はこだて外国人居留地マップ」の作成

代表 岸 甫一

活動の目的

本会は、今日のグローバルな時代において、幕末から明治にかけて国際都市であった函館の魅力を改めて見直し、函館の再生・活性化につなげる動機から設立した。そのため函館旧市街地(西部地区)の独自の異国情緒を今も生きている歴史遺産ととらえ、地元函館の目線で、かつての外国人居留地また居留外国人と

住民との交流などについて知られざる事実を明らかにすることを目的としている。この目的達成の手段として、旧市街地(西部地区)の歴史遺産の潜在的魅力をこれまでになく新たな歴史的切り口で引き出す外国人居留地マップを作成し、市民が開港や居留地など旧市街地(西部地区)の歴史遺産について興

味を持って学ぶ契機にしたいと考えた。

また、当会作成の外国人居留地マップを使った散策会を実施することにより、函館発展の原点となった旧市街地(西部地区)に異国情緒あふれる街区が形成されることになった歴史に実感をもって迫りたいと思っている。

📖 活動の内容

本研究会は、会員の研究成果に基づく市民に公開した研究会を開催しているが、2008年2月23日倉田会員・岸会員によるロシア領事館をテーマとする研究会を盛会裡に実施し、その研究成果に基づき数回のマップ作成会議の検討を経て、「外国人居留地マップ：ロシア編」を6月14日総会・講演会の出席者に配布した。そして7月19日函館市主催「はこだてにおけるロシア年事業」への協力として「外国人居留地マップ：ロシア編」を使った「西部地区に残るロシアゆかりの場所の散策と写真撮影会」を大学生ら市民15名の参加で実施した。このような研究会の開催→マップの作成→散策会の実施は当面の活動スタイルとして生かしたい。また、8月24日NPOまつり・パネル展で「外国人居留地マップ：ロシア編」を掲示した。

外国人居留地マップ第2号は、当初、アメリカ編を予定して、アメリカをテーマとする講演会・研究会を6月14日・10月25日と開催したが、開港150周年に合わせて函館開港期の総合的な内容も必要であるので、検討の結果、急ぎよ、函館開港と外国人居留地に関する清水会員の新しい研究成果を生かした「歴史・年表編：世界の中の箱館開港」に変更した。

📖 活動の成果

2008年度には、「はこだて外国人居留地マップ」の「ロシア編」と「歴史・年表編」の2種類を各3000部発行したが、このような研究成果をまとめたマップは、市内で初めての試みである。これらのマップは、市内の小中高等学校、大学・図書館・学術研究機関に寄贈し、市民にも「まちづくりセンター」で無料配布した。

マップをはじめとする当会の活動は、マスコミにも注目され、予想以上の評価をいただいている。こうしたことから、開港150周年関連の事業で、大学関係者や交流団体等からも当会からの知的支援・人的協力が求められている昨今である。

📖 今後の課題

2009年度「はこだて外国人居留地マップ」作成は「アメリカ編」とイギリス、中国を扱った内容を予定しているが、それで終了するものではない。フランス、ドイツなどはどのように扱うか今後の課題であるが、その際、これまでのマップを含めて各国を集約した総合マップを作成するという方向で論議している。

これまでのマップ作成に関連した一般市民向け研究会は一層親しみやすい内容に工夫し、これとは別に研究会の会員間の勉強会を開催し、研究活動を活発化させたい。また散策会は、「外国人居留地マップ」を市民に普及させる重要な機会であるので、他団体の散策会からも学びつつ、本研究会と市民の関係をより広がりのあるものとする契機にしたいと願っている。

本年、開港150周年の記念事業として第2回外国人居留地研究会全国大会を開催し、長崎・横浜・神戸など全国から気鋭の歴史研究者を招聘し、一般市民に開放した記念講演会・研究報告会を開催し、全国レベルでの研究交流の推進を目指している。今後、他の開港都市との恒常的な研究交流の出発点としたい。



2008年の活動報告④

はこだて元町チャーチフェスティバル実行委員会 西部地区の町並みのより深い理解を音楽を通して得る

代表 吉岡 直道

📖 活動の目的

「クラシック音楽ってどうして難しいの？」…こんな人たちが沢山います。

曲がわからない。作曲家もわからない。曲や演奏家が自分とは違った一段高い、遠く存在に感じる。どこで拍手していいかわからない、間違ったら恥をかきそう。等々…。

「何もわからなくても、耳だけあればみんな楽しめるよ！」と音楽の喜び、楽しさを多くの人たちに伝えたいと思って29年前にこの活動を始めました。

函館の元町地区は、亀井勝一郎が書いたように、世界中の宗教が集まったところであった。人々も早くからハイカラで進取の気性に富んでおり一般建築物も洒落た建物が現在も多く残っている。このような歴史的背景のある環境でのコンサートは、音楽のみならず視覚の効果、そして心の安らぎをも人々にもたらしてきた。

📖 活動の成果

聴衆の声から

- ①元町を散歩して教会前のポスターを見つけ、興味をもって聴きにきた。
- ②教会を訪れたら、偶然に演奏会が行われていたのでチケットを買って聴いてしまった。
- ③コンサートホールよりも小さい空間なので、演奏者が近く

感じられ、ダイレクトに感動した。

- ④小学生以下が無料なので、参加しやすく子供の情操教育に役立っている。

演奏者の声から

- ①チャーチフェスティバルは演奏家にとっても日本中探しても珍しい企画。
- ②緑豊かな函館山麓である元町地区には沢山の教会があり、落ち着いた雰囲気と特徴ある景観によって、のびのびとした豊かな気持ちになれる。また教会堂の音響もすばらしい。
- ③演奏者の多くはヨーロッパで、同じようなスタイルの教会での演奏会を経験しているので、思い出と共に、懐かしい気持ちで演奏できた。
- ④聴衆の反応がすぐに伝わって、特徴ある美しい町並に住む人々と同じ思いを共有しながら心地よく演奏できた。
- ⑤一度演奏すると、再び訪れたいと思う。事実、何度かリピーターとして演奏させていただいている。

以上、演奏者や聴衆の声や現在までの経緯を踏まえて、29年の歩みを振り返りました。

118回に及ぶ演奏会を通じて、地元の演奏家にも優れた知識や刺激を与えることが出来たと自負しています。また、過去

に聴衆であった子ども達の中から、プロの演奏家が数多く誕生し、新たに演奏者として参加していただいている事は喜びでもあります。さらに一度演奏していただいた方々、特にヨーロッパへの留学経験者のリピートの希望も多数あります。そのことから、歴史や個性ある町の風景やたたずまいが人間の心を育て、豊かな感性を刺激し、芸術を育むエネルギーになることをあらわしていると思います。環境の人間へあたえる影響の大切さを音楽上ではあるが確認出来ました。〈公益信託函館色彩まちづくり基金〉の主な助成活動対象地である函館西部地区にある様々な歴史的建物や町並みが今後も大切に愛され、利用されるために、保護や維持、再利用などに向けての地道な活動が今後必要であると考えます。

今後の課題

元町地域の教会を中心に活動してきましたが、近くにはお寺や神社もあり、静寂な美しい空間をつくっています。今後は、能や雅楽、太鼓など日本古来の芸術などにジャンルを広げて、函館市民や子ども達に、また違った感動を紹介できるようなお手伝いをしていきたいと考えています。

2008年の活動報告⑤

函館市公民館活性化ネットワーク イキ！ネット 公民館マチネ・シンポジウムの開催

代表 松石 隆

活動の目的

現在、函館の音楽文化振興に対して市民が利用できる規模のホールが不足しており、市民の文化交流・発信拠点確保が急務になっています。函館市公民館は、昭和8年に青年会館として開館して以来、文化交流・発信拠点として永年利用されてきましたが、10年前に函館市芸術ホールができたこと、駐車場がないこと、また、西部地区の人口が減ってきた事などから、利用されなくなっていました。

そこで、函館市公民館に必要な改修をほどこし、本来の目的である生涯学習に加えて、文化交流発信機能を付加して活性化しようと考えました。これにより、歴史的建造物を生かした文化芸術の創造、市民が主役の文化芸術の振興、ひいては文化芸術を活かしたまちづくりが実現すると考えられます。

助成事業では、公民館マチネの開催とフォーラムを開催し、上記の目的を達成する機運を盛り上げようとするものです。

公民館マチネとは、函館市公民館において良質の音楽会を安価で提供し、函館の音楽文化振興に貢献すると共に、多くの市民に函館市公民館へ足を運んでもらうことにより、函館市公民館の現状を知ってもらい、聴衆・出演者へのアンケートから文化交流・発信拠点としての利用可能性と問題点を抽出しようとする取り組みです。また、公民館フォーラムは、公民館マチネで得られたアンケート結果や専門家の意見を聞きながら、広く一般の方達と、函館市公民館のあり方について考えようとする会です。

活動の内容

助成対象期間に3回の公民館マチネ、2回のフォーラムを開催しました。出場者数延べ32名、来場者数延べ434名となり、昨年度の助成事業と合わせると出演者数は80名、来場者数は1883名に上ります。また、アンケートが累積で1164通集まり、統計解析に十分な数のご意見が集まりました。

活動の成果

一流の演奏家に低廉な出演料で演奏して頂き、多くのお客様にご来場頂けたことを考えると、函館の音楽文化振興に大きな貢献があったと考えられます。特に、2008年12月に開催した公民館マチネ第九回ではベートーヴェンの「第九」を演奏し、大きな反響を得ました。さらに、公民館マチネを参考にし、口バの音楽座(東京)、カミーシャトリオ(フランス)、藤井真吾(ギター)などによる本格的な音楽会が開催されるなど、函館市公民館を音楽文化発信拠点として利用する例が多く見られるようになりました。

活動報告

第116回目 “トランペットとオルガンの調べ”

8月17日(日)15:00 函館聖マリア教会
福田 善亮(トランペット)、細川 久恵(オルガン)

第117回目 “ソプラノとピアノの調べ”

8月24日(日)15:00 日本キリスト教団函館教会
佐藤 朋子(ソプラノ)、山口 恵子(ピアノ)

第118回目 “ニューオリンズジャズによる賛美歌コンサート”

8月30日(土)15:00 函館港ヶ丘教会
サウンド・オブ・ベスパーズ(賛美歌ジャズ・東京)
DORAバンド(スイングジャズ・東京)



また、ご来場者のみならず、把握しているだけでも10を超える関連新聞記事により、函館市公民館の存在とその現状、また函館市公民館の活性化が必要とされている現状を広く市民に知って頂けたことと思います。

また、公民館マチネをはじめとするイキ！ネットの活動は、逐次ホームページ <http://www3.to/ikinet/> に掲載され、この内容は広く全国に発信されており、函館市公民館を知ってもらうことに役立っています。

フォーラムにおいては、アンケートの集計を行い、半数以上は自家用車での来場であること、駐車場、トイレ、空調、バリアフリーの整備が求められている事などを含め、聴衆、演奏者から幅広い要望があることが分かり、制約条件のなかで、これらの要望をよりよく実現するために、附属棟奥に楽屋棟を新築するなどのアイディアも出てきました。

平成21年度函館市予算に公民館耐震診断調査費(1,530万円)、公民館のあり方に関する市民懇話会開催経費(30万円)が計上されましたが、これは助成事業の成果による機運の盛り上がりを反映したものと考えています。



今後の展望

公民館マチネを継続して開催し、より多くの市民に函館市公民館を認識して頂くとともに、フォーラムを通じて、より広い意見交換が出来ればと考えています。特に、今後函館市が「函館市公民館のあり方に関する市民懇話会」を開催していくので、懇話会の進捗を見極めて、函館市民が本当に必要とし、函館市ならではの函館市公民館を探っていきたいと考えています。

TOPICS

公益信託 函館色彩まちづくり基金 からトラストウェブサイトリニューアル！

今年の9月、「公益信託 函館色彩まちづくり基金」のウェブサイトがリニューアルいたしました。ブログ機能の導入により「プロジェクト助成」や「ペンキ塗り活動」についての過去の活動情報が今までよりも素早く検索することができるようになりました。色調もナチュラルな緑に一新！今回のニュースレター「から」にも取り入れられています。本誌のバックナンバーもこちらから閲覧できます。

ウェブサイトから発信される函館からトラストの最新情報に注目してください！

<http://www.h-nisshou.com/kara/>



第17回助成活動募集のお知らせ

みんなで汗を流せる まちづくり活動をしませんか？

公益信託も**あと4回**となってまいりました。いままでの皆様の研究・活動の成果を踏まえて函館の町に元気な風を吹き込んでみませんか？

■募集内容

函館のまちづくりに関わる市民レベルの様々な活動や企画の**実践**。そのために必要とされる研究。最終報告会への参加等による交通費は支給されませんので、その旨あらかじめご了解ください。

1. 建物の色彩や意匠の改善に寄与する活動
2. 町並みの改善・保全に寄与する活動
3. 知的財産の発掘と紹介に寄与する活動

但し、活動の成果に顕在性（衆目に触れる）と持続性（数年間）が見込まれる実践的活動であることを重視します。

■応募期間

平成21年11月～平成21年12月末日

■審査方法

当基金の運営委員会により審査・選考を行い、住友信託銀行が決定します。今回は**西部地区を重点整備エリアと位置付け、ここでの活動を優先します**ので、あらかじめご理解の上ご応募ください。

尚、応募された方には運営委員会の直前に、説明・アピールの機会が設けられます。

■選考結果の発表

応募者全員に個別に通知します。ニュースレター「から」28号でも発表します。

■助成金額

原則として、1件当たり10万円～100万円まで。

■運営委員

- ◎木村 健一（公立はこだて未来大学 教授）※運営委員長
- ◎足達 健夫（専修大学北海道短期大学 准教授）
- ◎小原 雅夫（元町画廊 経営、元 函館中部高等学校教諭）
- ◎小山 一彦（小山設計所 経営）
- ◎森下 満（北海道大学大学院 助教）
- ◎山本 真也（函館市都市建設部長）

■申込書提出先

住友信託銀行 リテール企画推進部 公益信託チーム
〒100-6611 東京都千代田区丸の内1-9-2
（グラントウキョウサウスタワー）

TEL 03-3286-8218 FAX 03-3286-8792

■活動報告

助成を受けた活動は平成23年2月の報告会にて発表をお願いします。

また、活動成果はニュースレター「から」にも掲載しますので、事務局あてに報告書と写真等の資料を提出してください。

尚、会計報告（助成金使用報告書）は平成23年2月までに住友信託銀行あてに提出してください。

■応募用紙請求先

函館からトラスト事務局
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15
TEL 0138-52-8411 FAX 0138-52-8170

※下記ホームページからもダウンロードできます。

編集夜話

かつてペンキ塗りボランティア隊によって塗り替えられ、同じく助成団体のアート・ユニット・ロップコクの展示等にも利用された元町の長屋一棟が最近取り壊された。

住居人のおばあさんは取り壊しが決まったとき、札幌に住む息子さんからの同居の申し出を断り、近くの古い家に移り住んで独居を続けている。元町を離れたくないという。彼女は以前から玄関前の小さなスペースにお花を植えて楽しんでいたのだが、現在も空地になったその250坪ほどの土地に花の種を撒き、ひまわりやコスモス、マリーゴールド等を咲かせている。老人の力では土を深く掘ることも出来ず、花壇と言うにはボリューム

ムが足りないけれど、秋風に吹かれながら咲き誇っている花は愛らしい。

そのすぐ側の我が家の庭は4年前に移植したブラックラズベリーが大きく育って大収穫であった。朝に収穫したものを冷凍し、まとめて大なべで煮込み、途中、裏ごしを加えてジャムにするのであるが、滑らかで野性味豊かな味わいとなった。近所の方々や知人におすそ分けしてもまだ余りある恵みに北海道の大地力を実感している。

2009年11月 河内 昌子

から第27号 発行／函館からトラスト事務局
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15

発行年月日／2009年11月1日 編集／河内昌子
Tel／0138-52-8411（日昇商事内）

からトラスト公式ホームページ <http://www.h-nisshou.com/kara/>